第一次産業の現状と今後

2020-10-11

HR2599　たくぞう

概要

中間発表や合同発表会では外国人労働者を中心に発表した。外国人労働者のなかでも日本の労働力が不足していく中でそれを補うために外国人労働者のあり方や実情をまとめた。様々な業界で人手不足の問題があり、とりわけ第一次産業では高齢化による人手不足で外国人労働者に頼っている現状がある。骨格1のレポートからは第一次産業に焦点を当てて第一次産業の現状と今後について考察していく。

目次

1. 日本の労働市場の変化
2. 人手不足の業界は
3. 第一次産業とは
4. 技能実習生の依存度
5. 第一次産業のあるべき姿とは
6. 今後の調査課題
7. 日本の労働市場の変化

　日本は今労働力不足に悩んでいる。労働市場は昭和期と現在を比較すると大きな変化を迎えている。日本の人口構造は言うまでもなくピラミッド型からつぼ型へと変化している。それに伴い労働力人口も高齢者の割合が高くなり人手不足な業界が増えてきている。労働力人口とは15才以上の働く意思と能力のある人のことをいう。労働力人口は1990年では6,400万人であるが2030年では6,100万人と減少の傾向にある。約300万人の労働力人口を埋めるために政府は外国人労働者に頼り新たな政策を行っているのだ。

1. 人手不足の業界は

　人手不足の業界は様々あり、建設業界や医療・介護福祉業界、飲食・サービス業界が挙げられる。その中で外国人労働者が多く就業している業界は農業や宿泊業、製造業と多岐に渡る。高齢化が進む業界も医療・介護福祉業界や運送業界、農業や漁業といった第一次産業である。そこで全てに当てはまり日本の根幹でもある第一次産業に焦点を当てて考察していく。

1. 第一次産業とは

　第一次産業とは自然界に働きかけて直接富を所得する産業のことであり、農業や漁業、林業、鉱業が当てはまる。日本標準産業分類において鉱業は第一次産業に含めないとしている。1920年（大正9年）では第一次産業の割合は53.8%であったが2015年（平成27年）では第一次産業の割合は4％となっている。たった85年でここまで顕著に第一次産業の割合が激減している。こうした労働力人口の減少により、食料自給率も38％と少ない。第一次産業の就業者数を細かく見ると、林業が4.5万人と過去30年で半減している。農業、漁業も同様に減少している。

1. 技能実習生の依存度

 　先述した通り、日本では第一次産業の労働力人口の減少と高齢化に伴い割合が大きく減少し日本の課題となっている。そこで政府は改正入管法により外国人労働者の受け入れを拡大した。もちろんその中には農業を始めとした第一次産業も含まれている。農業の就労目的として約18万人もの外国人が来日している。茨城県鉾田市では農業分野において外国人労働者を積極的に受け入れており、日本のマナーから農作の研修まで幅広く教育をしている。そうして実際に日本で農家を営むなどして成功例も挙げられる。

1. 日本のあるべき姿とは

　人口減少社会の中でも第一次産業はとても大切な産業であるのは間違いなく、これからも日本産の食品は守れなければいけにと強く思う。これまでの産業を守るには外国人労働者に頼らざるを得ないと思う。政府も今後も約4万人の受け入れの方針を決めており、後継者不足で悩んでいる農家の人々も少しは救われるのではないか。日本はどの業界にも関わらず今後も外国人労働者を受け入れ、多様性を認め共存していくのが日本のあるべき姿であると思う。

1. 今後の調査課題

　まだまだ研究が進めておらず農業だけではなく、林業も研究していきたい。また海外の例も取り上げ日本の外国人労働者のあり方を詳細に研究していきたい。

参考文献

【1】宮島喬、鈴木江理子、新版　外国人労働者受け入れを問う、岩波書店、2019-10

【2】島井一平、国家と移民　外国人労働者と日本の未来、集英社新書、2020-06

【3】澤田晃宏、ルポ　技能実習生、ちくま新書、2020-05

【4】四釜綾子、外国人労働者と社会的統合政策、玉川大学経営学部紀要(31)、1-16,2020-03

【5】林業労働力の動向、農林水産省、閲覧日2020-10-11、<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/012.html>

【6】日本の食料自給率、農林水産省、閲覧日　2020-10-11、https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu\_ritu/012.html